

令和元年度 第1回 蕨市公民館運営審議会 会議録

開催日時	令和元年7月24日(水)午後2時00分～4時03分
会場	下蕨公民館 1階 講習室
出席者 (順不同)	大鷲輝国会長(議長)、園川泰子副会長、笹恵子委員、小西政勝委員、山田由紀子委員、村川奈津子委員、高野真由美委員、土肥仁美委員、長谷川昭委員、小澤俊子委員 10名 加納克彦(中央)・岡部次男(東)・星野尚子(西)・野田智之(南)・鈴木啓文(北)・大山麻美子(下蕨)・井田誠(旭町)各館長、松永祐希課長・竹田有里係長(生涯学習スポーツ課)、瀬口正浩係長(中央、書記) 10名
	<合計>20名
欠席者 (順不同)	松原由紀恵委員、中村和弘委員、宮寄直子委員、中捨文子委員、朝倉伸行委員
主な添付資料	資料1、平成30年度第3回公民館運営審議会 会議録(案) 資料2、平成31(令和元)年度公民館 人事異動等 資料3・4、平成30年度公民館 事業報告・利用状況報告 資料5、平成31(令和元)年度公民館 事業計画 資料6、前回の会議での提示要望事項 関連資料
会 議 内 容 (要 旨)	
<p><公民館運営審議会> 午後2時00分 開会 議 事</p> <p>①前回会議録の承認 ②報告</p> <p>(1)平成31(令和元)年度公民館人事異動等 (2)平成30年度公民館 事業報告・利用状況報告 (3)平成31(令和元)年度公民館 事業計画 (4)前回の会議での資料提示要望事項のご提示 (5)その他 *配布資料のうち、14ページ冒頭に「資料6」とあるのは「資料5」に訂正</p> <p>1、開会 ※傍聴希望1名。規定により許可。 2、あいさつ 大鷲会長 開会あいさつ 3、議 事</p> <p>①前回会議録の承認 資料1『平成30年度第3回公民館運営審議会 会議録』(案)をもとに事務局から説明、質疑なく承認された。 ②報告事項</p> <p>(1)平成31(令和元)年度公民館 人事異動等について 資料2『平成31(令和元)年度公民館 人事異動等』に基づき事務局から、公民館関係部分を中心に説明。質疑なし。</p>	

- (2) 平成30年度 公民館 事業報告・利用状況報告、
 (3) 平成31(令和元)年度 公民館 事業計画について

資料3・4『平成30年度 公民館 事業報告・利用状況報告』、

資料5『平成31(令和元)年度 公民館 事業計画』に基づき事務局から説明

委員：各館の事業をこうした一覧表形式で見ると、それぞれの個性などが見えやすいと思う。自分たち委員も、そこから見える数値・傾向などの資料の使い方・活用が大事。

委員：旭町の「高校入試の話」とはどのようなことを行っている？開催のいきさつは？要望があつてのもの？

事務局：生徒募集や近年の入試の仕組みなどを、公立・私立校ともに説明するもので、受験生やその保護者が参加対象。もとは南で行っており、ここ数年は旭町でも行っている。旭町は職員が自身の子育てを振り返ったときに仕組みがわからなかったという経験が背景にあり、すでに南で実施をしていたことから、少し違った切り口でのということが始まったもの。南では、学校週5日制対応事業として同館で行っていた「サタスタ(サタデースタディ=自由参加で児童生徒の自主学習を支援するもの。土曜日に月1回行っていたが学校週5日制が定着したことから、数年前に終了している)」の一環として続いている。

.

委員：平和事業は、どの館でも行っているが、パネル展示のような「見るだけ」のものだけでなく、体験を聞く機会なども必要。戦争を体験した世代の高齢化で難しくはあるが、風化させることなく語り継いでいく機会を。西公民館の「戦争体験を語る会」は実際の体験者を採す苦労はあると思うが、そうした人たちから話を聞く良い事業。こうした機会をぜひ設けてほしい。

委員：戦争体験を語れるかたがどれくらいいるのか、公民館では把握しているか？

事務局：西では、近隣の西小学校の授業の枠内で、子ども達を対象に行っている。話をしてくれる人は、年々減少傾向で、確かに大変ではある。語っていただけるのを把握しているかたには一通りお願いしているが、お願いできるかたが少なくなってきた。語ってくれる人の発掘をというのは、その通りなのだが、本当に悲惨だったりつらかったりした体験は話したくないというかたも少なからずいる。

委員：事業の企画がよいものだとしても、参加者が集まらない事業もあり、検討が必要。

委員：自分は戦時中に熊谷方面に疎開しており、熊谷市内の空襲を見聞きした。大変な被害だった。

事務局：熊谷の空襲は有名。蕨市でも被害を説明する際に、終戦直前に3度の空襲を受け、県内では熊谷に次ぐ被害というような説明をする。歴史民俗資料館や公民館などでは、夏を中心に、国内だけでなく、海外で今も続く争いなども取り上げて事業を行っている。この事業

に関しては単に参加人数の多寡だけではなく、語り継いで継続していくことが大事であり、平和について考える機会として、今後も工夫しながら取り組んでいきたい。

委員：自分は「家庭教育学級」「子育て学級」への参加から公民館活動に携わるようになった。現在は働く保護者が増え、全体的に参加者減少の印象がある。社会の流れ・家庭のありようの変化が、今日の資料（の数値）に示されているのだろうと思う。そうした変化・流れに合わせて事業を行っていくのは大変なことだと思う。「準備された事業へは参加するが、自主運営のサークルとなると参加したくない」傾向だと聞く。人の心のありようが変わってきており、「手間をかけたくはない」という人が増えているのかなと思う。

委員：自分が活動しているボランティア団体は、会員数も比較的多い。参加する側のニーズの把握を、実施する側が、さらに磨き上げて（ブラッシュアップして）いくことが必要。ここに示された数値はそうした指標（メルクマール）となるものである。また、こうした数値は単年度でなく経年で比較して見られるとよい。単年度の数値や、合計・平均値だけで判断してよいものではなく、傾向を見て、常に見直しを図ることが必要。北町の事業への延べ参加者数が1万人超となっていて他館と比べて多いが、なにか理由がある？

事務局：ロビーで行った写真展が、50日間実施と長かったのが主な要因である。次年度以降もこうした展示を継続して行うかどうかは調整中のため、今後もこの数値が確保されるわけではない。経年の数値を見たいとのご意見には、今後提示する資料は、必要な物には前年度分比や過去の数値を併記するなど作成方法を工夫する。

委員：自分が主に活動している公民館は、地元町会の協力体制があり「地域の公民館」という実感がある。旭町の昨年度報告にある「ボッチャ」とは？

事務局：東京パラリンピックでも種目となる年齢・性別や障害の有無などに関係なく誰もが手軽に行える球技。個人戦・団体戦・障害によるクラス分けなどがあり、ルールが似ているため「地上のカーリング」とも呼ばれる。「ボッチャ」はイタリア語で「ボール」の意味。実際にやってみると、ゲーム性もあり非常に盛り上がる競技である。一昨年の南地区フェスでは体験事業を行った。現在は体育協会各支部でも備品をそろえるなど、普及しつつある。

委員：旭町は夜間の講座開催など職員の勤務体制も大変かと思うが、駅前という立地条件なども活用して事業を行っていると思う。平和事業は、子どもたちに「戦争はテレビゲームのような映像の中の出来事とは違う」ということを伝える機会。体験談を聞く・当時の食事を試食する・パネル展示を見るなどといった形式のほかにも、映像や音楽、語りなどによる方法もある。そうした見たり聞いたりするといった手法を通して”目と耳”両方から訴えることが必要。

委員：事業計画にある「講師謝礼」とは？

事務局：各館で予定している金額である。

(4) 前回の会議での資料提示要望事項について

資料6『前回の会議での提示要望事項 関連資料』に基づき事務局から説明
～主に、施設予約システム・現在の予約1件あたりに要する費用、
施設の利用（稼働）状況など

委員：多くの数値データの提示がされ、今すぐには、資料や数値の読み解きは難しいため、次回以降の継続協議としたい。平日の日中に公民館へ予約に行くことができない人のためにも予約システムの検討は必要。

委員：過去のこの会議で示された利用統計を自分でまとめて保管している。それらを見てみると、施設利用状況が減少傾向なのは、主として「社会教育関係団体」利用の減少が主な理由と言える。ある館の例では、この10年間で約20も団体が減っている。団体数やその会員数を、どのように増やしていくのかが、利用増へのひとつの課題。

委員：次回の会合ではそうした点も含めて「団体（の在り方・活動など）」について協議する時間も設けたい。

(5) その他 なし

午後4時03分 園川副会長 閉会あいさつ、閉会